

清泉女子大学  
データサイエンス AI 教育プログラム  
自己点検・評価報告書

2022 年度

清泉女子大学では、2022 年度より「清泉女子大学データサイエンス AI 教育プログラム」を実施した。2022 年度のプログラム実施について、清泉女子大学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム運営委員会にて自己点検・評価を行った結果は以下のとおりである。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本教育プログラムは、必修科目 2 科目と選択科目 1 科目の 3 科目から構成されている。従って、本教育プログラムを修得しようとする学生は、3 科目のうちの選択科目 1 科目を積極的・意識的に履修登録する必要がある。2022 年度は、本教育プログラムの位置づけや履修方法を学生に説明する機会が限られていたため、左記の選択科目を履修登録した学生が 10 名以下にとどまっていた。</p> <p>そこで、2023 年度は、4 月初頭に行われる学年ごとのガイダンスなどで、本教育プログラムの紹介と具体的履修方法の説明を行い、それによって多くの履修者を得ることを目指す。</p>
学修成果	<p>本教育プログラムを構成する 3 科目は、いずれも、履修登録者に占める単位修得者の割合が 9 割を超えている。従って、シラバス上の到達目標に鑑みた履修者の学修成果は所定の水準に達していると判断できる。その一方で、本教育プログラムを構成する 3 科目のうち必修 2 科目は複数クラスから構成されていて 4 名の教員が分担担当しているために、クラスごとに課題の詳細や成績評価の基準が異なっており、結果的に全クラスを通しての学修成果の評価検討が困難になっている。</p> <p>そこで、2023 年度は、複数クラスから構成される授業科目について、学修成果を統一的に確認する方法を検討・開発することを目指す。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>本教育プログラムを構成する 3 科目は、いずれも本教育プログラムに必須とされる内容やレベルを超えた授業内容が含まれている。そのため、現在実施されている授業評価アンケートにある「授業内容を理解できたか」という指標が、この教育プログラムの内容に特化した理解度を確認する手段としてはふさわしくない状態になっている。</p> <p>そこで、2023 年度は、本教育プログラムを構成する 3 科目の授業評価アンケートにおいて、この教育プログラムの内容に特化した指標・設問を検討・開発しそれを試行することを目指す。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>2022 年度においては、本教育プログラムの意義や科目構成について十分な説明が学生に届いていなかった。そのため、各履修者が他の学生に履修を勧めるかどうかという意識を確認する前提条件がないと思われ、それを調査していない。</p> <p>そこで、2023 年度は、本教育プログラムの意義や科目構成について十分な説明を行うこととあわせて、履修者が「他の学生に履修を勧めるか」について調査することを目指す。</p>

全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	2022年度は、本教育プログラムを構成する3科目のうち選択科目については、履修者数が10名以下と限られていた。 2023年度は、左記の選択科目の履修者を増やす方策を採るため、その授業内容・方法についても、多くの履修者に対応するものとなるよう準備することとする。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	2022年度末時点では、本教育プログラムの各科目を履修した学生は1年次生のみである。そのため、相当する学生のキャリア意識を調査することは困難であり、また、本教育プログラムを修得した卒業者に対する社会からの評価を調査することも不可能な状態である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	2022年度末時点では、本教育プログラムの内容・手法等について学外から意見を聴取していない。 そこで、2023年度は、本教育プログラムの内容・手法等について学外からの意見を聴取するために、どのような具体的な方法が適切・可能であるかを検討し、可能な範囲でそれを実現することを目指す。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	履修者が経験しているAI・データサイエンスの事例の背景・仕組みを、授業において詳細に実演・提示することによって、履修者の集中度や関心が高まったり課題に意欲的に取り組むようになったという事例が授業担当教員より報告された。 そこで、2023年度は、本教育プログラムを構成する各授業科目において、履修者が経験している関連事例をより多く取り上げることを目指す。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	対象3科目を履修する上で前提要件となる数量スキルについて、十分な学力をもたない履修者が散見されるという事実が授業担当教員から報告された。 そこで、2023年度は、各授業が開始される前に、本教育プログラムの履修に必要なとされる数量スキルを履修者が修得しているかどうか確認し、必要に応じてそれらを再学習するための学習教材を示すことを目指す。